

西岡市長

“気候非常事態宣言”に積極的。 Co2削減を強力推進と発言!

小金井市議会第4回定例会が11月1日から始まりました。坂井の気候変動対策を求める一般質問に対し、市長は、極めて前向きな姿勢を示しました。



西岡市長

今後、庁舎福祉会館建設や公共施設の長寿命化においても、計画的に気候変動の取組を強力に推し進めたい。学校施設でも、ぜひ進めていただきたい。

小金井市は地球規模で見れば面積的に小さいが、自治体としてやるべき。誰もが諦めたら何の取組も進まない。

気候非常事態宣言は積極的に受け止める。

気候変動対策は待たなし!

2018年、国連の気候変動サミットでのグレタ・トゥーンベリさんのスピーチが注目を浴びました。「あなたたちは誰よりも自分の子どもが大切だと言いながら、子ども達の目の前で彼らの未来を奪っている」と。その思いや活動は世界にひろがり、今年9月の「グローバル気候マーチ」には世界760万人が参加。日本全国では5000人が参加しました。



世界では、9月末時点で1000以上の国や自治体などが「気候非常事態宣言」を発表。日本では、9月25日、長崎県壱岐市が宣言し、10月4日に鎌倉市議会が決議しています。



宣言に対する職員
の答弁は後ろ向き
だったので、市長
の積極的な答弁に
驚きました。

国内自治体での宣言は壱岐市のみ。人口や電力消費の多い都市部での宣言が必要です。

今後も、宣言実施や、宣言を後ろ盾とした施策の強力な推進を求めます。

市民一人ひとりが、省エネや脱プラなど環境に配慮した暮らしを送ることも大切です。



誰もが自分らしく暮らせる小金井に

12月8日は小金井市長選挙の投開票日です。市長選は、市民が、これからのまちづくりを考え、意思表示する大切な機会です。

11月15日現在、現市長の西岡真一郎さん、自民党の市議だった河野律子さんと、共産党の市議だった森戸洋子さんが正式に立候補を表明しています。

私が、初当選させていただいたのは4年前の市長選に伴う市議補選でした。以降、市政に対し是々非々で臨んでいます。西岡市長の政策意志を読み取るのが困難なため、もどかしい場面が多々あります。私が、いま最も問題視しているのは、学校給食の調理業務をすべて民間委託するという方針です。給食の質や小金井らしさを守るビジョンを示さないうまま、直営ゼロを打ち出すような政策形成はあり得ません。

一方で、評価していることもあります。表面で紹介した気候変動に対する積極的な態度やCo2削減の強力推進のほか、来年秋ごろをめざしての「同性パートナーシップ制度」の導入、2019年度の非常勤職員への待遇改善、チェルノブイリ事故以降、市民による食品の放射能測定について、老朽化した測定器を30年ぶりに更新したことです。いずれも市長判断があったからこそ実現しました。

そして、“はげ”と野川をこわす都市計画道路について、現職市長として“反対”の意向を示したことは小金井のまちづくりにとって極めて重要です。また、市長は「婦人相談員は、次年度から1名、有資格者の正規職員を配置する」と明言しました。いずれも、ここ数年にわたって市民や議員が訴えてきたことがやっと伝わったと理解しています。

現市長は、「市民との対話」や「市議会との合意形成」による開かれた市政運営を掲げています。12月の市長選で求められることは、市民の力を合わせ、かつての閉塞した市政に逆戻りさせないことです。市政運営では、更なる環境や人権に関する取組みを求めます。私は、誰もが自分らしく暮らせる小金井をめざし、今後も是々非々で臨んでいきます。

2019年11月19日

小金井市議会議員 坂井えり子